

令和7年3月7日発行（第194号）

# こうじえん 耕耳苑

いわてアグリ  
ベンチャーネット  
にも掲載中！



普及センターだより

宮古農業改良普及センター TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631  
岩泉普及サブセンター TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806  
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

## 年度末の御挨拶

宮古農業改良普及センター 岩泉普及サブセンター 技術主幹兼所長 及川 修

昨年、四半世紀ぶりに「食料・農業・農村基本法」が改正され、本年は「新たな食料・農業・農村基本計画」策定の年であり、農政の大転換が求められている中、農業の現場では、肥料や飼料等の価格高騰、基幹的農業従事者は高齢により将来の減少が見込まれ、異常気象による農産物の質・量の低下、令和の米騒動、家畜伝染病の感染拡大等、農業を取り巻く情勢は依然として厳しいものがあります。

このような状況の中、普及センターは、農業経営者や生産組織等への個別巡回指導を行い、品目ごとの栽培管理指導会・研修会等の開催による技術向上を図り、地域の中核となる経営体の育成、規就農者の確保・育成、水稻「銀河のしずく」の生産拡大、野菜・果樹・花き・地域特産品目の生産体制の強化、畜産の産地力向上、環境保全型農業の推進、食文化伝承活動の支援等、関係機関・団体と連携し実施して参りました。

今後、地球沸騰化による高温への技術対策、生産資材高騰へのコスト低減対策、農業従事者減少等による労働力不足の解消対策等、困難で重要な課題は山積しておりますが、普及センターでは現地での指導活動を基本に、各種実証・研修会の開催等により情報発信・技術向上を図り、関係機関・団体と連携し、課題解決に向け取り組んで参りますので、引続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 令和6年度の各農業賞の受賞者が決定！

令和6年度の各農業賞の受賞者が決定しました。受賞された方々には、誠におめでとうございます！

！いわて農林水産振興協議会会長表彰

(敬称略)

| 受賞区分            | 氏名     | 市町村 |
|-----------------|--------|-----|
| 明日を拓く担い手賞（農業部門） | 久保田 智治 | 宮古市 |

久保田様は、岩手県立農業大学校を卒業し、滋賀県の園芸専門学校で栽培技術を学んだ後、平成29年4月に地元に戻り、就農しました。現在は、ブロッコリーを柱として、にんじん、ピーマン、きゅうり、ミニトマトなどの野菜栽培に取り組み、地域内の遊休農地を効果的に活用した規模拡大を図るとともに、家族労働力のほか、パート雇用も積極的に行っております。また、令和元年には、JA新しいわて宮古ブロッコリー生産グループの一員として、グローバルGAP認証を取得し、農業経営の改善や効率化につなげております。

2 宮古地方農業賞

(1)農業振興部門

(敬称略)

| 区分     | 受賞区分        | 氏名    | 市町村 |
|--------|-------------|-------|-----|
| 農業推進の部 | 地域を担う農業経営者賞 | 扇田 友和 | 宮古市 |
|        |             | 尾形 大地 | 山田町 |

扇田様は、大学卒業後、県外の農場や宮古市内の農家で研修を重ね、平成 29 年に就農しました。現在は、トマトや春ブロッコリーなど複数品目の野菜栽培に取組み、地域内の遊休農地を活用して規模拡大を図っています。また、生産技術の向上や加工品の販売など経営改善にも積極的に取り組み、若手農業者の模範となるリーダー的存在となっており、今後は、新規就農者の研修受入れにも取り組まれる予定です。

尾形様は、会社勤務を経て、平成 28 年に就農しました。技術習得を重ねる中で徐々に繁殖成績も向上しており、復興水田も請負い、粗飼料を生産して経費の圧縮に努めるなど、畜産と水稻を両立した営農を継続されています。また、町の堆肥センターの運営にも協力するなど、地域の農業振興に多大なる貢献をされており、将来の町の農業をけん引していく経営者として期待されています。



【R7.2.8 授賞式の様子 ①】



【 // ② 】



【 // ③ 】

(2)園芸部門

(敬称略)

| 区分   |              | 市町村  | 氏名           |
|------|--------------|------|--------------|
| 最優秀賞 | 野菜部門(きゅうり)   | 宮古市  | 松 舘 怜        |
|      | 野菜部門(ブロッコリー) | 田野畑村 | 中 村 真 文      |
|      | 野菜部門(わさび)    | 岩泉町  | 三 上 義 和      |
|      | 花き部門(りんどう)   | 宮古市  | 中 村 一 彦      |
| 優秀賞  | 野菜部門(ピーマン)   | 山田町  | 齋 藤 清 利      |
|      | 野菜部門(きゅうり)   | 田野畑村 | 大崎建設(株)      |
|      | 野菜部門(ブロッコリー) | 宮古市  | 上 坂 喜 和      |
|      | 野菜部門(いんげん)   | 岩泉町  | 佐々木 憲 吾      |
|      | 野菜部門(だいこん)   | 田野畑村 | (株)佐々木農場     |
|      | 花き部門(小菊)     | 宮古市  | 大 坪 茂 光      |
|      | 椎茸部門(生いたけ)   | 田野畑村 | (株)サンマッシュ田野畑 |

(3)畜産部門

(敬称略)

| 区分   |              | 市町村  | 氏名        |
|------|--------------|------|-----------|
| 最優秀賞 | 酪農部門(21頭以上)  | 岩泉町  | 加 藤 政 敏   |
|      | 酪農部門(20頭以下)  | 岩泉町  | 小野寺 光男    |
|      | 和牛繁殖部門(6頭以上) | 岩泉町  | 佐々木 一二    |
|      | 和牛繁殖部門(5頭以下) | 田野畑村 | 熊 谷 広 光   |
|      | 短角繁殖部門       | 岩泉町  | 三 上 光 浩   |
|      | 酪農部門(21頭以上)  | 田野畑村 | (株)田野畑牧場  |
| 優秀賞  | 酪農部門(20頭以下)  | 宮古市  | 皆 川 美 樹 也 |
|      | 和牛繁殖部門(6頭以上) | 宮古市  | 澤 田 時 治   |
|      | 和牛繁殖部門(5頭以下) | 宮古市  | 田 沢 新 実   |
|      | 短角繁殖部門       | 岩泉町  | 野 尻 定 己   |
|      |              |      |           |

【担当:山本】

## 令和6年度宮古地域「銀河のしずく」栽培 実績検討会を開催しました！ ～さらなる高品質・安定生産に向けて～

令和7年1月16日に「銀河のしずく」栽培実績検討会を開催し、生産者や関係機関31名が参加し、今年の栽培を振り返りました。

今年の「銀河のしずく」栽培は、8月が平年をかなり上回る高温となり、昨年に続き、高温障害の発生が懸念されましたが、生産者の皆さんの肥培管理や水管理等の努力もあり、一等米比率が100%となりました。収量面でも、平年より単収が高かった農家も多く、良い一年になったと思います。

一方で、紋枯病やごま葉枯病といった病害の発生は例年よりも多くみられたことや、湛水直播栽培の実施に関する検討なども行い、今後の更なる品質向上や低コスト化の取り組みが進むことが期待されます。

研修の部では、「岩手国際水準 GAP チェックシート」を用いて、よりよい営農に向けた自己点検や、J-クレジットに関する講習を受ける等、農業の持続性や環境に配慮した営農への意識醸成も少しずつ取り組んでいます。

米価高騰や備蓄米放出等が話題となり、今後の動向が注目される稲作ですが、高品質なお米を安定的に供給するために、引き続き生産者を支援していきます。



【担当：小野】

## 先進地に学ぶブロッコリーと集落営農

宮古管内において、営農構想の策定に資することを目的に、宮古農業改良普及センター及び宮古農林振興センターの職員各2名が先進地視察を行いました。

視察先は、宮古地域でも推進しているブロッコリーの大産地である鳥取県の「大山地域」と島根県で土地改良事業を契機に集落組織を設立した農事組合法人「のきの郷」です。

大山地域では通常栽培のブロッコリーの他に、特別栽培や JGAP 認証の取得にも取り組んでおり、出荷先をわけることで有利販売につなげているとのことでした。また、出荷方法も宮古地域と同様の発砲スチロールに加えてダンボール出荷も行っており、それぞれの利点を考慮して生産者が選択しているそうです。その他、離農する生産者の機械や施設を次の担い手に継承する仕組みの構築等にも取り組んでいました。

集落営農法人「のきの郷」では、米・穀物の他にトマト、キャベツ、いちご、ぶどう等の園芸品目も栽培し、農閑期をなくすことで年間を通しての雇用を可能にしています。組合長は、農業をやりたいけれど資本がなく始められない人の受け皿となりつつ、将来的には自立して地域の担い手となってほしいという思いを持っており、若手にも栽培の責任をもたせる等、若手育成にも積極的にとりくんでいました。

今回の視察では先進地ならではの仕組みや取組を学ぶことができました。今回の視察で得られた知見を宮古地域の農業振興に向けた支援に活かしていきたいと思います。



【担当：昆野（有）】



## 令和6年度宮古地域きゅうり実績 検討会を開催しました！

JA新いわて宮古地域野菜生産部会きゅうり専門部では、今年のきゅうりの栽培や販売実績を振り返り、安定生産に向けた意識統一を図ることを目的に、2月10日に宮古営農経済センターできゅうりの実績検討会を開催しました。

当日は生産者6名、関係機関9名が参加し、JA・市場から販売状況や要望について説明がありました。今年度のきゅうりは、8月の台風で一時的に出荷量が減少しましたが、耐病性品種へ切り替えたことなどから前年より長期間の出荷となり、反収が大きく増加した結果となりました。

その後、来年度の栽培に向けて、種苗メーカーから品種ごとの特性と栽培管理について説明があったほか、当センターから病害虫対策やかん水等について説明しました。

生産者からは、関係機関の説明を熱心に聞く様子が見られたほか、様々な質問や意見が出され、活発な検討会となりました。

当センターでは今後も関係機関と協力し、きゅうりの安定生産に向けて引き続き支援していきます。



【担当：熊谷】

## 山火事警戒宣言が発令されました

令和6年は、岩手県で33件、宮古管内で3件（宮古市2件、山田町1件）の林野火災が発生し、このうち、4月に発生した宮古市刈屋地区の事例は、186haを焼損する大規模火災となりました。

また、今年は2月26日時点で既に10件の林野火災が県内で発生しており、昨年同時期より5件増加しています。2月19日に大船渡市で300haを超える大規模林野火災が発生した後、陸前高田市でも発生、さらに2月26日に大船渡市で発生した山火事は住宅等への延焼を伴い大きな被害が生じています。

県では2月27日から5月31日までの期間、「山火事警戒宣言」を発令し、県民の皆様へ、改めて山火事防止の注意喚起等を実施しています。

特に重要となる山火事防止3原則は、「①強風、乾燥時は野外で火を使わない」「②森林の近くでたき火、野焼きをしない」「③たばこの吸殻は投げ捨てない」の3つです。

例年、冬から春にかけては野山が乾燥し、風が強い日も多いため、林野火災が発生しやすい気象条件となります。今年は沿岸部での2月の降水量が極端に少ない状況でした。今後も、気象庁の「強風注意報」や「乾燥注意報」等を確認し、火の扱いに十分に気をつけて、恐ろしい山火事の防止にご協力をお願いします。

【担当：戸田】

### （編集後記）

時の移ろいは早いもので、3月となり令和6年度も終わりを迎えます。この「耕耳苑」では、地域の農業者の皆様のご活躍される姿や普及センターでの取組等をお伝えしてきました。1年間、ご愛読いただきありがとうございます。来年度もタイムリーにわかりやすくお伝えできるよう一層頑張りますので、引き続きご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。（山本）